

良き国に学ぶ



在札幌フィンランド共和国名誉領事

横山 清

フィンランド共和国の名誉領事を拝命して十二年の歳月が流れました。

当時、名誉領事館は大阪と札幌のみでフィンランドの評価も現在ほど高いものではありませんでした。森と湖の国、ムーミン、サウナ、サンタクロース、第二次世界大戦後はじめての夏、冬季オリンピック開催国などが私達の脳裏にあるフィンランドの印象でありました。今では世界一の携帯電話で有名になったノキアが頭角を現しはじめた頃でソビエト連邦崩壊後この国を襲った不景気がパラダイスから一転して地獄に転落させたと言われておりました。しかし質実にして剛健なフィンランド人は着実に数々の難問を解決して繁栄の基礎を築きあげ経済成長とそれに伴う生活水準の向上はあらゆる分野のイノベーションによる脱工業化や国際指向の消費社会へのスピードアップによるものと高く評価されております。

一方、我国はフィンランドの好調とは裏腹にバブルの崩壊によって塗炭の苦しみを味わい、近年ようやく光明を見出し始めました。国土は日本の90%、人口は北海道より少ない520万人の小さな巨人であるフィンランド共和国の発展は私達に大きな感動と勇気とチャレンジ精神を与え続けてくれます。特に北海道に住む私達は未来に少なからず悲観的な考えが先行する流れがあります。

曰く北海道は高齢化が急速に進んでいる。一次産業は不振、そして寒冷地域であることでの生活環境の苦難など数えれば際限がない程の愚痴が私の心の中にも潜んでいます。しかし、フィンランドと比較すればこのような言い訳が通じないことを自覚させられます。森と湖ばかりで4倍の広さ、国土の中には北極圏もある寒冷地、おまけに夏は白夜で冬は太陽の顔が拝めない。人口は少ないことは勿論で少子高齢化は御多分に洩れない。サウナの国でありながら平均寿命は日本人より短いのです。エア・ドゥは苦戦したが、フィンエアラインは世界に羽ばたいている優良航空会社で、児童の学力も世界のトップです。

やはり私達は何かが不足している様です。もっと厳しい条件の中で高いレベルの国民生活を実現している国がある以上キヤッチアップのターゲットとしてフィンランドを見習い精進することで北海道の近未来が透視できると思います。

(※現在、両国の交流が進み名誉領事館は、札幌、長野、名古屋、大阪、北九州の五カ所になりました)